

# 共立女子大学 文芸学部報

文芸学部報 第一一八号

編集責任者 村上隆

二〇一三年四月一日

共立女子大学 文芸学部発行

東京都千代田区

一ツ橋二二二一

学部報に関する  
ご意見・ご感想を  
お寄せ下さい。

E-mail:  
gakubuh@  
kyoritsu-wu.ac.jp

## 文芸学部創設60周年を迎えて

### 文芸学部長 村上 隆

一九五三年(昭和二十八)に発足した文芸学部は今年、創設六〇周年を迎えます。人間の年齢に喩えれば還暦ということになります。六〇年生きると生まれたる年の干支に戻り、暦が廻ったというわけで、多少の紆余曲折はあったにせよ、暦が一巡りするほどに年を重ねることができたことを、まずは素直に喜びたいと思います。

しかし、本封筒の裏面にも書かれたように、発足以来、自らに与えられた定めには立ち寄り、再スタートをきるといふ意味もありました。還暦に赤い頭巾や衣服などを身につけたりするのは、赤が魔除け・厄除けの色であるということだけでなく、もう一度赤い坊に返って生まれ直す、出直すという意味が込められていたとも言えます。

本原稿を依頼された際に参考資料として、文芸学部創設四〇周年記念(五〇周年記念)の二つの学部報を渡されまし。それを読むと、それぞれ当時の学部長である藤本宏幸先生と津川良太先生が、ともに文芸学部創設の理念を繰り返して強調されていることに気がきます。

節目節目には、ともすれば忘れがちになる自らの原点に立ち返ることの大切さを思ひ、これは当然のことである。まして今年には文芸学部にとって還暦、本封筒の年であると考えれば、これまで以上に学部創設の理念を私たちが確認しておく必要があると思います。

かつて文芸学部創設に関わり、初代学部長になられた新聞良三先生は、文学と芸術にわたる「高度で広い教養を身につけた人」として私たちに語りかけてくれています。



神田一ツ橋キャンパス本館 (提供: フォトひろせ)



フランス・ルビヨン 聖セバスティアン礼拝堂壁画・十六世紀

## 美の旅

Voyage sur la route des chapelles romanes.  
À Roubion.

田口 亜紀

南仏、地中海からイタリア国境に至る一帯にはロマネスク様式の教会が点在する。ニースからアルプスに向かう途中、山中の小村ルビヨンの礼拝堂に入った。

聖人の一生を描くフレスコ画が内部の壁面と天井を覆う。聖セバスティアヌスがローマ皇帝に撲殺される瞬間、天使はこの殉教者の純潔な肉体と魂を抜き取った。

(たぐち あき  
専任講師・フランス文学)

## 文芸学部 創設60周年に寄せて

### 学長 入江 和生

現在も使われている10円硬貨が初めて発行されたのは昭和28年である(製造はその2年前から)。当時私は10歳だったが、それまで紙幣だった10円が硬貨に変わった驚きをよく覚えている。

同じ昭和28年に日本でテレビ放送が開始された。街頭に設置されたテレビを初めて見た驚きは未だに私の記憶の中に鮮明に保存されている。あれに比べれば、その後の電子機器の与える驚きなどもの数ではない。その後のテレビの普及がいかに日本人の暮らしを変えてしまったかを考えると、あの年は、ある

意味で、現代日本の出発点だったと言えなくもない。

イギリスのエリザベス女王の戴冠式もこの年のできごとだった。その数日前にイギリスのヒラリー卿がエベレストに初登頂を果たしたことが、戴冠式に花を添えた。日本の報道も華々しく、今にして思えば、あれは、世界中で「戦後は終わった」との認識を共有する儀式だったのではあるまいか。

まさにその年に文芸学部は誕生した。そうか、あの年だったか! という思いが、私にはある。

この60年のあいだ、日本は、



本館1・2階吹き抜け (提供: フォトひろせ)

をえなくならない。文芸学部の売りが文学・芸術であることは言うまでもない。文学・芸術が人間の本来に根差したものであることは、有史以来の人間の歴史が証明していることは当然だった。それが何の役に立つか、などとは考えもしなかった。それが何の役に立つか、と考える人がいるとすれば、その人こそ文学・芸術に触れる必要がある。現在、情報技術の進歩によって、文学・芸術に新たな展望が開けてもいる。若者文化が新たな展開を見せている。信念が揺らぐことさえなければ、文芸学部にとって、時代に即応する道はいくらでも見出せるだろう。

文芸学部がその本質を維持し、さらに発展させることを望んでいる。

(いりえ かずお)

## 大学随想

### 遠藤 耕太郎

「東日本大震災では、二万人もの人々の命が失われました。また福島第一原子力発電所の事故により、非常に多くの人々が故郷を奪われました。このような出来事に対して、文学や芸術は無力だ」という意見があります。

この意見に対しては、あなたはそのように考えますか。」

文芸学部の平成二五年度指定校推薦の小論文課題である。こんなことを書くと思えるかもしれないが、私は出題にかかわっていないから好き勝手なことを言ってしまう。

「ここには、こういう時代だからこそ文学や芸術が必要だ」という、教員の強いメッセージがある。反面、ほんとは文学や芸術は無力なのかもしれないという不安がのぞいてくる。

文芸学部の歴史は、文とかによって説明せざるを得なくなり、その存在意義を失うことになる。

文学や芸術の力とは何か。それは外国人とコミュニケーションをとるための道具とシヨンをとるための道具とかな、情報を処理する技能を培うための道具とかではなく、人に感動を与えようということである。小説、詩歌、あるいは舞台、絵画、彫刻、こういうすべてのものは、人の心を打つからこそ力を持つのである。

文芸学部の売りが文学・芸術であることは言うまでもない。文学・芸術が人間の本来に根差したものであることは、有史以来の人間の歴史が証明していることは当然だった。それが何の役に立つか、などとは考えもしなかった。それが何の役に立つか、と考える人がいるとすれば、その人こそ文学・芸術に触れる必要がある。現在、情報技術の進歩によって、文学・芸術に新たな展望が開けてもいる。若者文化が新たな展開を見せている。信念が揺らぐことさえなければ、文芸学部にとって、時代に即応する道はいくらでも見出せるだろう。

文芸学部がその本質を維持し、さらに発展させることを望んでいる。

(いりえ かずお)

新入生への挨拶

文芸学部長 村上 隆



新入生の皆さん、共立女子大学ご入学おめでとうございます。そして文芸学部によこそ。

思えば近くに来たもんだ

沼田 知加

うーん、惜しい！一年前まで一・二年生は八王子キャンパスで授業を受けていた。その



とを追うようだと指摘した詩人の谷川俊太郎は、或るエッセイの中で次のように言っています。

もって孤独なものであろう。業としての責任は自分がとらねばならない、そこに業としての深淵と

その中で、時流に阿らず、いつの世にも変わらぬものを求め、文学と芸術という人間の精神に深く根ざす営みから、静かに学ぼうとしてきた多くの先輩



帰りの道、ライトアップされた東京タワーを見る

たのは、中央線特急の「あずさ」や「かいじ」だ。たまに車窓から見える富士山や、浅川や多摩川の河川敷をぼんやり眺めることばあっても、旅気分を満喫していたわけではない。

景色が見えない地下鉄道中、一仕事するための貴重な時間だった。レポートを読んだり、テストの採点をしたり

を象徴するタワーが、通勤道中の始まりと終わりにアクセントをつけてくれるものになった。

通勤の初日

曹 元春

一九九五年四月八日は日本に初めての出勤日だった。大都会東京の女子大学に勤めることも、電車通勤すること、

私にとってはすべてが初経験だったので、その日は朝からいささか興奮気味だったのを覚えて

私は当時の勤務地だった八王子キャンパスへ向かうため、七時四十分の地下鉄に乗るべく早めに出た。駅へ向かう人々がみな急ぎ足だったので、私もそれにつられていつの間にか足

今帯生一きび今あした

麗しき人 美しき国 沖繩 井上 英子

沖繩に夫婦共々魅せられて、海も晴天間基地も見える

を度月も経験してきた。二〇〇〇前後の適温が八カ月も続き、自然の恵み、伝統芸能の

大家族に育っており、老人を労り、小さい子供の面倒を見る

不義理をする人を決して責めず笑顔と情に溢れている。映画の登川直樹先生は「私は自然流です」とよくおっしゃっていたが、まさにそれを実践している。独自の歴史を持ち



地元の友達と離島へ(左が筆者)

あたり前、車がない私には、気がつけば誰かの車に乗せてもらっている。他県民には越えられない一線もあるが、その距離感が心地良い。

研究紹介

阿部 由香子

「さらめく星座からシャンハイムーンへ」井上ひさしの演劇『日本近代演劇史研究会』

池上 公平

『ヒロ・テラ・フランチェスカとフランチェスコ会』アレッツォ・サンフランチェスコ聖堂内陣装飾の考察『共立女子大学文芸学部紀要』

奥 彩子

(共編著)柴宜弘・木村真・奥彩子編『東欧地域研究の現在』山川出版社 二〇一二年十月

水谷 靖

平成二十四年度福井県池田町第十一回新作品公募展「瘦男」福井県教育委員会賞受賞 二〇一二年十一月

山本 聡美

「死への想像力」九相図がつかなく、過去と現在『芸術新潮』二〇一二年十月号

まで、一時間授業がある日の電車通勤はいつも悪戦苦闘の連続である。

一方、通勤ラッシュが過ぎる直前、電車は意外に心地よいものである。車窓からはいろいろな風景が眺められるし、車内の光景も新鮮である。読書にこそ心むるの姿もよく目にすることがある。

ところで中国ではブックカバーはあくまで本の痛みや汚れを防ぐために用いる。しかし日本が本にブックカバーをかけていることだ。

中国語ではブックカバーを「書皮」、それを本にかけると「包書皮」という。新学期の始まりに、「包書皮」する(教本をきれいに飾りたい)とか、カバをする理由



ブックカバー

はさまざまなおしゃれな理由がある。また書店で本を購入する際に店側がカバをかけてくれるのは日本だけの習慣であろう。

ブックカバーがその人の「文化」を表現するというのは興味深い指摘である。日本の多種多様なブックカバーを見ていると、確かに日本人は元来単なる実用品に過ぎなかったブックカバーを持ち主の心を表す一つの文化にまで高めたと言っても過言ではないのかもしれない。

(そう) けんしゅん 教授・日中比較文学・文化

# 列車万華鏡

大島 十二愛

高架構が完成し、吉祥寺、中野方面と万世橋駅の間を往復していた中央線の電車が、東京駅まで入ってこられるようになった。山手線は東京から品川、新宿、田端を経て上野へ走っていたが、鉄道省はこれに中央線を結び、中野から新宿を通じて東京、品川へ、それからもう一度新宿を通じて池袋、上野へ行くという運転を始めたのである。この線路のかたち、ひらがなの『の』の字に似ているのだ。今はもう『の』の字の名残はない。しかし、新橋の停車場から鉄道の拠点東京駅へと移り、五三年も時間を費やして山手線が環状線となるまでの間、人々の生活の足として活躍したその少し奇妙な『の』形の半環状線に思いを馳せれば、当時の人たちの心躍らせたであろう情景が目に浮かび、なんとも愛おしく思われるのである。そんな歴史をもつ中央線の列車メロディーを毎朝聞きながら、私はムクリと身を起し、通勤仕度を始める。



月夜の東京タワー(左) 京都タワーと京都市街(右)

満員の通勤電車に揺られながら、iPodで音楽を聴くのが習慣だ。クラシックもポップスも洋楽も邦楽も何でも聴く雑食だが、好んで聴くのは『くるり』だ。大学時代を京都で過ごした私にとって、R大学のバンド仲間が結成されたという彼らの音楽は、どこか懐かしい学生時代に思い出させてくれる。京都に住んでいた頃には、全く感座った紳士が靴からおむろに取出した、膝に乗る位の木の板と折り紙。あつという間に愛らしいパンダを折りあげ、近くに居た、母子に差し出した。それまでずっといた子どもが瞬時に笑顔になり、母親は少し恥ずかしそうに会釈した。別の日の夕刻、疲れたサラリーマンでござ

共立へ着任して以来、私の朝の心強い相棒となっていたのが鮮やかなオレンジ色の目覚まし時計だ。大学院時代の友人らが就職祝いにフレセントしてくれたものだ。そこから流れるメロディーは、駅で耳にする「チャイム」である。文字盤には東京から高尾までの駅名が書かれ、と、ここまで書くとお気づきの読者も多いかもしれない。そう、中央線をモチーフにした目覚まし時計なのである。かつて『の』の字運転と呼ばれた中央線。北原亞以子著『東京駅物語』(新潮文庫、一九九九年)所収、「第四話終着駅」にはこんな一節がある。「大正八年に東京駅と万世橋駅をつな

たあの瞬間。京都駅に到着する時に見えた東寺の東塔や京都タワーが眩しかった。東京で社会人となった今、車窓から見える塔は東京タワーと東京スカイツリーに変わった。

都会の喧騒の中にも、ほっとする光景に出会うことがある。或る日の朝、車内で斜めに座った紳士が靴からおむろに取出した、膝に乗る位の木の板と折り紙。あつという間に愛らしいパンダを折りあげ、近くに居た、母子に差し出した。それまでずっといた子どもが瞬時に笑顔になり、母親は少し恥ずかしそうに会釈した。別の日の夕刻、疲れたサラリーマンでござ

## 読書の時間

池上 公平

通勤の車中では座ると寝る。特に帰りは疲れているので、ひどい時は隣の駅に着く前にすでに寝てしまっていることも多い。そんな筆者であるから、もしあの地下鉄サリン事件が再び起きたら、真っ先にオダブツであらう。

しかしいついとも寝てはかっているわけではない。車中、ほとんどの区間が地下鉄のため、外の景色を眺めることができず、イヤホンで音楽を聴いたり携帯のゲームをしたりする習慣もないので、いきおい本を読むことになる。授業期間中は、目的に縛られない純粋な読書の時間は電車の中に限られると言ってもよい。通勤道中記というテーマは少し異なるかもしれないが、ここでは車中で読んだ本について書くことにしたい。

ブルーストの『失われた時を求めて』を、翻訳と言えま

『陰徳太平記』(昭和四七年、臨泉書店、複製本)という書物を読んでいる。この本は、かなり大きな本だ。そこでこれをスキャンすることにした。コピーする、つまり紙媒体にする、とても扱いにくくなる。スキャンしてPCで読めば、ずっと持ちやすくなる。はじめはノートパソコンで読んでいた。電車の中で読むには、座らないと読めない。周囲の人々がPadを使うのを見て、心動いたのだ。あれでも大きい。思い切ってアンドロイドのスマートフォーンに移してみた。字が小さすぎるのではないかと不安だったが、これは杞憂だった。これなら立ったままで読める。可搬性は電子化の利点その一だろう。僕が使っているスマホのソフ

## 研究ノート

### 『陰徳太平記』を読む

内田 保廣

トでは、一部を切り出したり、コピーしたり書き込んだりという能力はない。単なるビューワーだ。もう少し進んだソフトだと、切り出して、メールに添付して送ることもできる。あるいは書き込みも可能になる。可変性、これも電子化の利点だろう。

複製本からうつしたので、著作権への配慮が必要だが、これが原本からの複製であれば、自由に頒布することもできる。それをまたコピーすることも可能だ。電子化は複製に適している。

このように考えると、著作権の適用を免れる古典文学は、電子化に相性が良い。「電子出版論」を昨年度担当したものでちょっとしたことでも利点に挙

なる。とりわけ毛利元就の英雄ぶりは際立っている。この作品は、江戸時代文学の代表作に題材を提供していたところから重要な位置を占めていた。この武士たちは保身のために手段を選ばず、主君を裏切り、時

## 異動・消息

彼等のいわゆる「歴史」がはなはだ胡亂なものであることを、ランチェスコという美術史にちきわめて大きな影響を及ぼした修道会の活動やその意味について、理解する上でも大きな助けになった。ついでながら筆者はかつて訳者の清水茂先生のフランス語を履修してAをもらったことがあるので、先生には足向けて寝られない。

エルサ・モランテの長編『歴史』は衝撃的だった。何さき人々の受難にほかならない。そして一人一人としての歴史とは、モランテが描くような苦しみ、悲しみ、怒り、希望であらう。近頃日本における歴史教育に異を唱え、過激な言辭を弄する手合いが目につくが、

山本聡美教授(准教授) 退職  
岩崎えり奈(准教授) 岩崎えり奈  
原礼子、細沢舞里

文芸学部の優秀な卒業論文・卒業制作に与えられた賞  
平成二十四年度は、次の作品に贈られました。  
白川祥子  
(造形芸術コース)  
「ジョット芸術の革新性とその起源」

## 心象点描

### 歌舞伎座再開場

近藤 瑞男

歌舞伎座が、この学部の発行される四月には改築を終了し、華やかに再開場されていくことだろう。休場中に東日本大震災が起きていたが、もし老朽化した歌舞伎座の時だったら、どのような大被害になっていたのだろうか。歌舞伎座は、本当に運の良い劇場だと思ふ。近代日本の激動の中、歌舞伎をひたすら守り続けてきた松竹の思いがこの強運を導いたとしか思えない。

私が初めて歌舞伎を見たのは歌舞伎座だった。戦後歌舞台を支えた役者たちの名舞台をいくつも見た。中でも高橋十郎、中村芝翫が彼岸に旅立ち、昨年になって、二月に入校生の時見た、故十二代目市川團十郎の父、海老蔵の祖父

彼等のいわゆる「歴史」がはなはだ胡亂なものであることを、ランチェスコという美術史にちきわめて大きな影響を及ぼした修道会の活動やその意味について、理解する上でも大きな助けになった。ついでながら筆者はかつて訳者の清水茂先生のフランス語を履修してAをもらったことがあるので、先生には足向けて寝られない。

エルサ・モランテの長編『歴史』は衝撃的だった。何さき人々の受難にほかならない。そして一人一人としての歴史とは、モランテが描くような苦しみ、悲しみ、怒り、希望であらう。近頃日本における歴史教育に異を唱え、過激な言辭を弄する手合いが目につくが、

山本聡美教授(准教授) 退職  
岩崎えり奈(准教授) 岩崎えり奈  
原礼子、細沢舞里

文芸学部の優秀な卒業論文・卒業制作に与えられた賞  
平成二十四年度は、次の作品に贈られました。  
白川祥子  
(造形芸術コース)  
「ジョット芸術の革新性とその起源」



〈劇芸術〉

60年と99年

文芸学部は今年60周年を迎えます。では、創立99年目にあたる劇団は？

現存する日本最古の劇団である宝塚歌劇団が、その答えです。

人間の60歳は還暦と呼ばれ、かつては十分に長寿でしたが、今はまだまだ元気に活躍する年代です。

る機会はなくありませんが、普段はなかなか見られないものもあり、また偏りが起きる傾向が見ることが出来ないものもあります。

〈フランス語フランス文学〉

日本では「選ぶ」？

平成二四年度は、静岡県掛川市二の丸美術館での私の個展を皮切りに、静岡県立美術館・ポーラ美術館・ガラスの森美術館・彫刻の森美術館等を巡り、夜は座車を囲みディスカッションを行いました。

フランスは出産チームだぞうだ。たしかに合計特殊出生率は日本より高い(二・〇対一・四)。

変なタイトルですが、不潔にしましよというところではあります。

〈日本語日本文学〉

汚す訓練

造形芸術コースでは、卒業論文・卒業制作に向けて、研究旅行を計画しています。

「女性と社会」の授業中に「将来、専業主婦になりたい人は？」と尋ねたら、一人も手を挙げない。

日増しに過ごすやすすくなる今日この頃。在校生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

〈文芸教養〉

ひさかたの

つ、偶に一息いれながら、知識も人間関係もなるべく多くのものを培ってほしい。

この地に大学が位置していることを他大学の教員から羨ましがられることも多いのですが、

〈文芸メディア〉

地の利を活かす

学生として神保町で学んでいることの利点を感じることが多いのではないのでしょうか。

「教職課程」カリキュラム改定 二〇二二年度入学生から教職課程カリキュラムが新しくなっています。

「司書課程」木を見て森も見る 本課程ではまず始めに「図書概論」を履修し、図書館司書が学ぶべき技術や知識をおよそその関係を把握して、

クリス・ホスキンス先生

(教授)

プロフィール

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」



「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

〜と云ふた言〜

授業のクウキ

教員も人の子ですので、ナイショクや居眠りを発見すると傷つきます。私の話はそのように面白くないか。反対に、授業中に鋭い質問を受けたら嬉しく感じます。

木を見て森も見る 本課程ではまず始めに「図書概論」を履修し、図書館司書が学ぶべき技術や知識をおよそその関係を把握して、

大学院文芸学研究所情報 大学院に進学するのは、大学を卒業したばかりの人？

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」

「普段はバンドでバイオリンを弾いています。始めたのは中学生の時。最高の趣味です。」